



Artist Clip

四代
田辺竹雲齋
Chikuunsai Tanabe

竹の可能性は無限。 伝統と挑戦と

photo: Yasukuni Iida text: Yurie Kimura

明

治23（1890）年以來、竹工芸の技と精神を受け継いできた田辺竹雲齋。この3月、先代の次男であり、現代アーティスト家としても国内外で知られる田辺小竹さんが四代竹雲齋を襲名した。先代の逝去から3年、心と作品の準備を整えてきた。

「不安やプレッシャーはありますが、今、私が先代たちの作品から多くを学べるように、後を継ぐ孫

やひ孫に作品を通していろんなものを与えられる作家になりたい」3歳から竹工芸の基礎を教え込まれた。父親は厳しかったが仕事場は楽しく、家を継ぐものと疑わずにいた。しかし実家を離れ東京藝術大学彫刻科へ進んだ後、疑問が頭をもたげた。「自分は本当は何がしたいのか？」

「悩みに悩んで底まで行った時、自分は竹をやる人生こそが一番誇

「ときに代々のわざに学び、海外在住の建築学者とのコラボレーションも。伝統と挑戦、両極の可能性を求めたい」



「Disappear IV」(約 26.5 × 24 × 高さ 52.5cm)

「天然竹花籃 無」(約 32 × 32 × 高さ 71cm)

りに思える、と気づいたんです」

以降、竹の彫刻の制作を開始。最初の作品のタイトル「つながり」は、今も創り続けるアート作品のシリーズになっている。

卒業後は、大分県竹芸訓練支援センターでの2年を経て先代に師事。厳しい修業中から発表してきた独自のアート作品は、高い評価を得ている。

四代竹雲齋には三本の柱がある。

「代々の伝統技術を受け継ぐ」、インスタレーションと「コラボレーション」。あとの二つは、これまでの竹雲齋にはなかった試み。「伝統と挑戦」がテーマの襲名展では、これまで控えていた代々の技に、やはり受け継がれてきた鳳尾竹、古矢竹などの貴重な竹を使って初めて挑んだ工芸品

や、シンガポール在住の建築学者・貝島佐和子氏とのコラボレーションから生まれた、新しいアートシリーズ「Disappear」が初お披露目される。

「大小合わせて今、百点くらいできています。でもいくらあっても足りない、もっともっといいものを創りたいと思ってしまっんですよ(笑)」

たなべ・ちくうんさい 竹工芸家。1973年、大阪府堺市生まれ。東京藝術大学彫刻科卒業。国内外で個展・グループ展多数。曾祖父の時代から高島屋美術画廊での個展多数。2015年タカシマヤ美術賞受賞。

Information

高島屋美術部創設110年記念
四代 田辺竹雲齋 襲名展

大阪店 6階美術画廊

4月26日(水) → 5月2日(火)

※大阪店1階正面ウインドーにて、竹のインスタレーションを展示。

4月19日(水) → 5月2日(火)

日本橋店 6階美術画廊

6月28日(水) → 7月3日(月)

※日本橋店1階正面ホールにて、竹のインスタレーションを制作。

公開制作：6月21日(水) → 27日(火)

展示期間：6月28日(水) → 7月11日(火)